開建高校
Kaiken High School

令和６年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」指定校発表会 発表資料

開建高校ホームページ

京都市立開建高等学校
教頭　宮越 敬記

開建高校
Kaiken High School

指定当初のこれまでの高校教育に対する課題意識

○学びの動機付けが大学入試となっていること
○高校の授業が知識伝達型の傾向になっていること
○自分のやってみたいことややるべきことに対して、
　主体的に考えたり行動したりする力が弱いこと

学校の学びと社会とをつなげ、生徒が自ら知りたい、
学びたいと思い、主体的に行動できる力をつけたい

開建高校
Kaiken High School

そこで注目したのが、京都の都市特性

「伝統・文化」「大学のまち」「ものづくり都市」等

京都の強みを最大限に生かした教育活動により、
実社会での体験と実践に基づく学びの実現を目指す

京都市立開建高等学校

開建高校
Kaiken High School

設置学科：ルミノベーション科(その他普通教育を施す学科)
教育目標：より良い未来をめざし、個性を活かして社会を協創する生徒の育成
募集定員：240名
教職員数：校長１、教頭２、事務長１、教諭４０、常勤講師２４、養護教諭１
実習助手４、事務職員４、管理用務員１、非常勤講師１０、ALT３
地域協働コーディネーター１、校務支援員１、総合育成支援員２

「希望をもって未来を協創することを通して、生徒一人一人が
新しい自分を見つけ、自らの成長を実感できる学校」

令和５年４月　開校
令和５年６月　新校舎竣工・移転

開建高校
Kaiken High School

目指す姿

自らが主体的に考え、探究し、多様な他者と協働することを楽しみ、未来社会を創造する人物（協創者）

「自分らしく生きていくために必要な、自ら考え自ら学ぶ力」をつける学び

仮説①：自分らしく生きていくためには、自分の良さや可能性を認識し、他者を尊重すること、かつ、自分が未来社会の創り手であるという志をもつことが必要ではないか

仮説②：自ら考え自ら学ぶためには、学びが楽しく、自己の成長につながるものと感じられ、かつ、学び方がわかっていることが必要ではないか

開建高校
Kaiken High School

カリキュラム開発の３つの柱

①授業が変わる ～学びを楽しむ～

②魅力あふれる京都をフィールドに実践する
　探究活動 ～学びと社会をつなぐ～

③生徒が夢中になれる課外活動
～より深く、より広く～

生徒が主体的に学ぶ学校づくりに対して、
学校がやろうとしても、
なかなかできないことに真正面から挑戦

開建高校
Kaiken High School

ルミノベーション科（その他普通教育を施す学科）

地域社会を学ぶのではなく、“地域社会で学ぶ学科”です。
地域で見えた課題に対して、１つではない答えを
自分たちのプロジェクトとして探究します。

各分野のプロの方との対話・協働による
体験的・実践的な学びを行います。

学校内の他者だけでなく、地域の方々とも対話し、
多様な価値観を共有します。

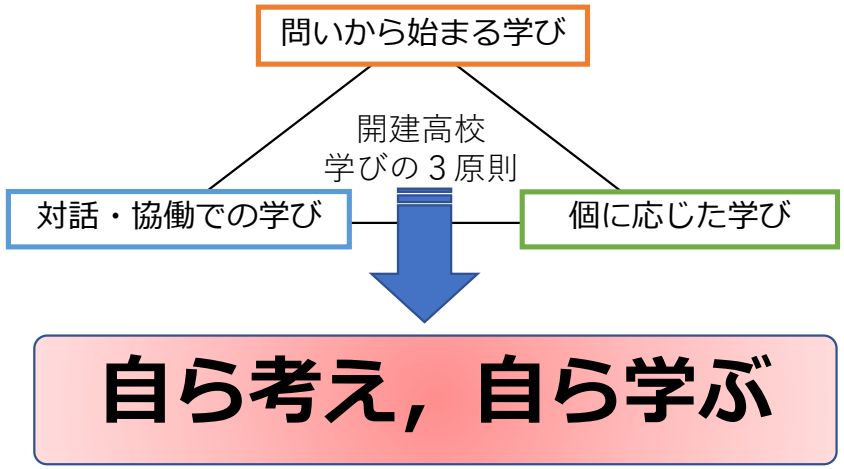
※文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の研究指定を受けています（*R4*～*R*６年度）
※文部科学省「高等学校*DX*加速化推進事業（*DX*ハイスクール）」の指定を受けています（*R6*年度）

開建高校
Kaiken High School

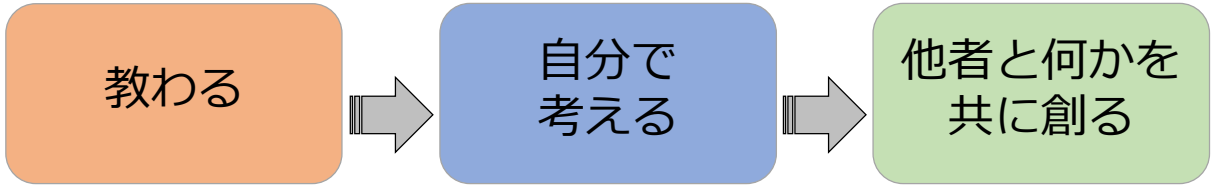
「新たな学びの形」の実践

授業のアプローチを変える　→
「伝える」から「考えて至らせる」

教室の形を変える →
L-pod空間を活用した多様な学び



すなわち

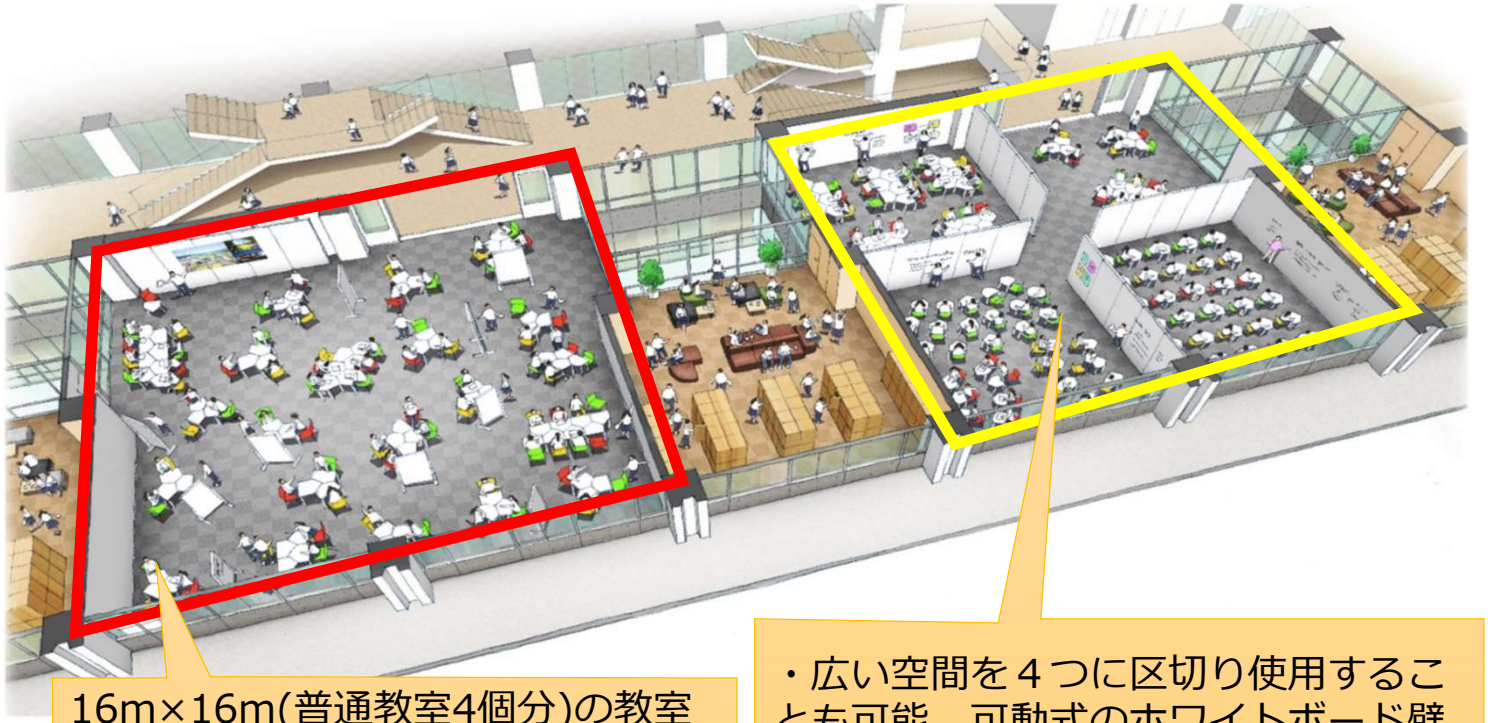


このように学びの主体を生徒にシフトする

開建高校
Kaiken High School

学びの空間・L-pod

授業の目的や手法に応じて、変幻自在に教室の形を変えることが可能であり、多様な学びの空間を提供



16m×16m(普通教室4個分)の教室では、80名の生徒に教科担当３名の教員が多様な授業を展開

・広い空間を４つに区切り使用することも可能、可動式のホワイトボード壁を使用
・電子黒板や全館無線LANなど、最新のICT環境を整備

Full OpenでWS型授業

Closeで少人数講座

BYOD・1人1台端末を活用

開建高校
Kaiken High School

チームによる指導体制について

多様な多人数指導の形態（原則、３名による授業）

①３名が等しい立場で進める展開（全開・分割）
②１名が中心に授業を進め、２名が支援に入る展開
③２名でワークショップを行い、１名が両空間をサポートする展開

開建高校
Kaiken High School

L-pod教室のメリット

○習熟度別の講座展開、学び方別の講座展開、名簿順での講座展開など、様々な形態が可能
→学び方別講座展開では、生徒が自分にあった学び方を選択できる
○教員の得意を生かした指導が可能
→（特に）若年教職員のOJTとしての効果も
○講座の授業展開に応じた、生徒の講座選択が可能
○教員が休みをとっても、チーム内でカバーが可能

懸案事項

○打ち合わせがこれまで以上に必要となり、時間の確保が困難
○特定の特性をもつ生徒が学習環境に対応することが困難

開建高校
Kaiken High School

生徒が主体的に知りたい、考えたいと思える仕掛けとして、「問いから始まる学び」を学びの原則としている

生徒が思わず考えてしまう「問い」の例

「世の中もっとこうなって欲しい！と思えることはどんなこと？」（現代の国語）

「一度始まった戦争が終わるためには、どのようなことが必要か？」（歴史総合）

「“開建高校の生徒は不良だ”という主張に反論するには？」
「TikTokを使えば使うほど成績が下がるのか？」（数学Ⅰ）

開建高校
Kaiken High School

学びの中核にある１６の「開建コアスキル」

汎用性の高い方略（コアスキル）を身につけ、多様な学び方を獲得し、それらを組み合わせることで、自らの学びに活用する。

開建コアスキルにより、固定的に考えていた学びについて、多角的に捉えることを促したり、チームビルドの参照点となったりすることができる。

開建コアスキルカード

開建高校
Kaiken High School

自分の理解した方法を何度試してもうまくいかないとき

当たり前と思っていることを捉えなおしたいとき

自分の気持ちをいったん置いて、客観的に考えたいとき

開建高校
Kaiken High School

開建コアスキルカードの特徴

○大分類として、「探索」「分析」「解釈」「表現」を設定
　→質の高い探究を行う上で、「探索」のスキルは特に重要
○カードとして、文字通り「手札」を与えることで、様々な場面でコアスキルの活用が容易に
○コアスキルの修得には、ワークショップ型の授業を実施

開建高校
Kaiken High School

授業の一番の評価者は生徒です

「３種類の解釈が聞けて、作品への理解が深まった」
「今日のグループワークは必要なかった」

ねらった力は育成できているのか

学びのモチベーションが高められているのか？
そもそも、その授業のゴール設定は適切か？
（狭義の）学力につながるのか？

☆授業が変わったことで、明らかに授業に参加していない
　生徒がこれまでと比べて激減
☆授業のゴール設定はまだまだ課題あり
　知識・技能、思考力等の先にあるパースペクティブの獲得へ
☆伸びている要素とそうでない要素がはっきりしてきた

開建高校　総合的な探究の時間　特徴について

・個で進める探究と他者と協働する探究を並走し，複雑で多様な地域社会での共生のあり方を考える
・初期チュートリアルを終えたら，生徒の責任ある計画の立案・実行に任せ，複数の探究のサイクルを経験
・成果ではなくプロセスを重視し，生徒が自由に発想し，確かな自信をもって行動に移す姿勢を喚起

フェイズⅠ
自己の内面に迫る

価値観や考え方、性格や特性について客観的な評価も織り交ぜ自分の内面に迫る。また、社会を見通し未来を思考するスキルや未来を創るために必要なスキルを身につける。

フェイズⅡ
社会の現状に触れる

学びのフィールドとして地域社会に出て、そこで起こっていること、起こりつつあることを五感で感じる。仮説検証型の学びを通して、自己の在り方について考える。

フェイズⅢ
未来を想像し、具体化を探る

ありたい未来を想像し、その実現に向けて、自分の個性を発揮し、自分らしいアプローチでまわりを良くしていくことのできる具体的な方策を探る。

フェイズⅣ
他者と実現のための具体を創る

未来に挑戦する京都の企業や団体の人たちと結びつき、フェイズⅢで考えた具体化の方策を実現するイノベーションプランを考え、実現する。

フェイズⅤ
未知の領域へ自分らしく挑戦

これまでの取り組みを振り返り、さらにやってみたい、さらに知りたいを生み出すことで、自らがやりたいこと、できること、すべきことに向けて新たなことに挑戦する。

さらなる問いを胸に羽ばたく「協創者」へ

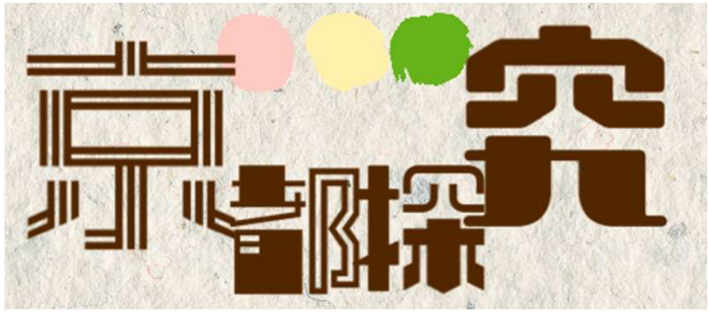
1年前期	1年後期	2年	3年前期
「まずは，やってみる」	「書を携えて，街へ出よう」	「やってみたいをやってみる」	「The Sky is（NOT）The Limit」
・協創パースペクティブ ・Small Start! 自己の視点を拡張し他者と協創する基本スキルを獲得	・「京都探究」 企業等から「考える枠組み」をもらい，ありたい未来を想像提言する	・「それしかないわけないでしょう！」 自由な発想から「ありたい未来」を想像し，自分や他者の視点や発想と結びつけ，イノベーションへ向かう 他学年，学校外の人々との協働を複数回経験する	・自ら活動のあり方を考え，他者との協創を重ねていく 個人/グループ　研究/実践 同年齢/異年齢　発表/実装 など…
協創基礎			
コアスキルの理解	コアスキルの活用		

開建高校
Kaiken High School

１年生

協創
Perspective

SMALL
START



開建高校
Kaiken High School

１年生前期

協創
Perspective

各教科・科目の独立した世界のルールや内容を理解するだけではもったいない！！教科・科目の学びから、この世界の見方・考え方を学べるはず！！

各教科・科目のパースペクティブで『コンビニ』を見てみる

社会課題の解決に各教科・科目のパースペクティブを使ってみる

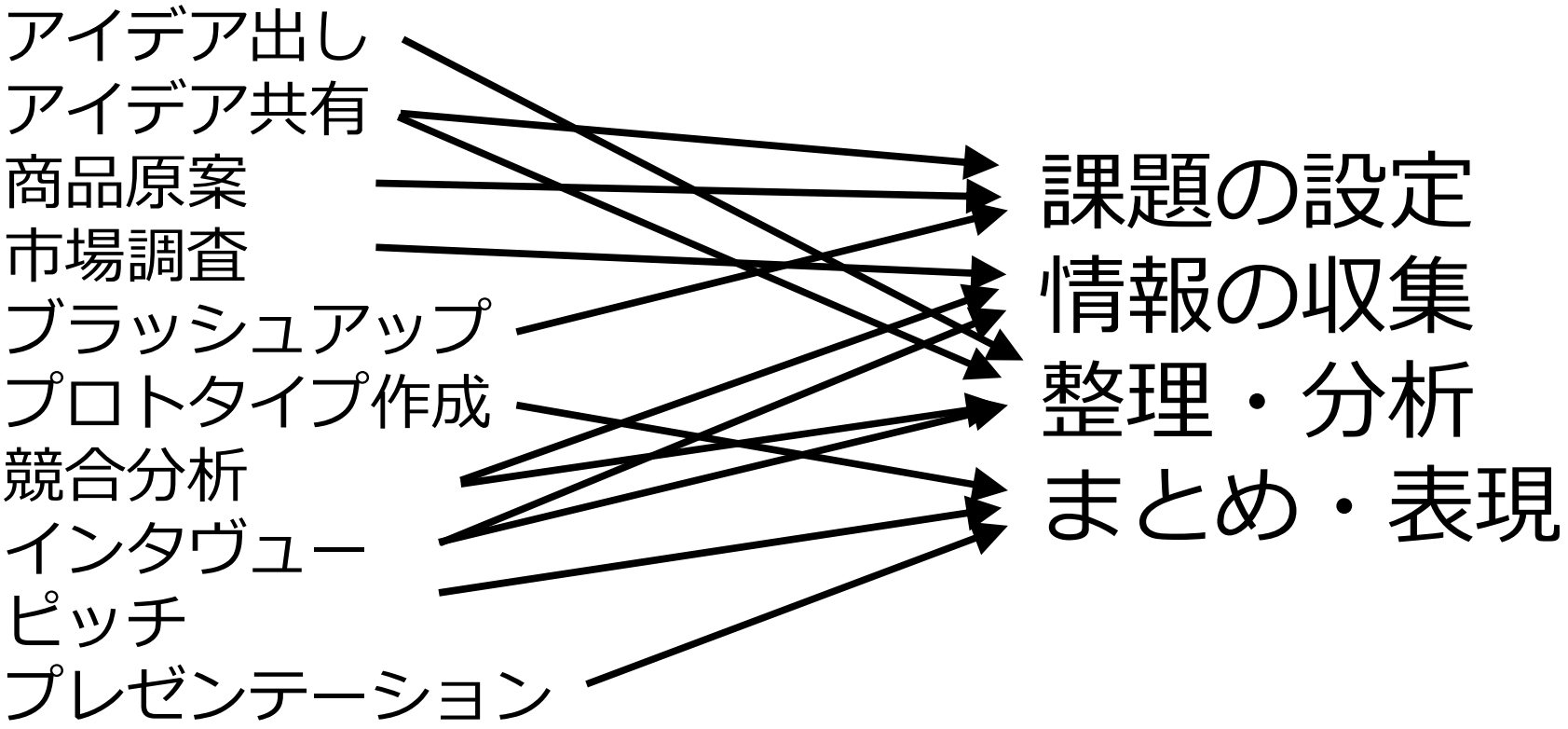
「特定のパースペクティブだけでは捉えきれない広範かつ複雑な文脈や事象を多様な角度から俯瞰して捉える」ことを各教科・科目の学びで発揮することで、各教科・科目のパースペクティブがより強固なものとし、深い学びにつなげる

開建高校
Kaiken High School

１年生前期

SMALL START

生徒の日常の“あるある”をアップデートし、ゼロから価値を創造する力の育成を目指すプログラム。
新商品開発を通して、探究の型を身につける



授業中の
睡魔は何処へ

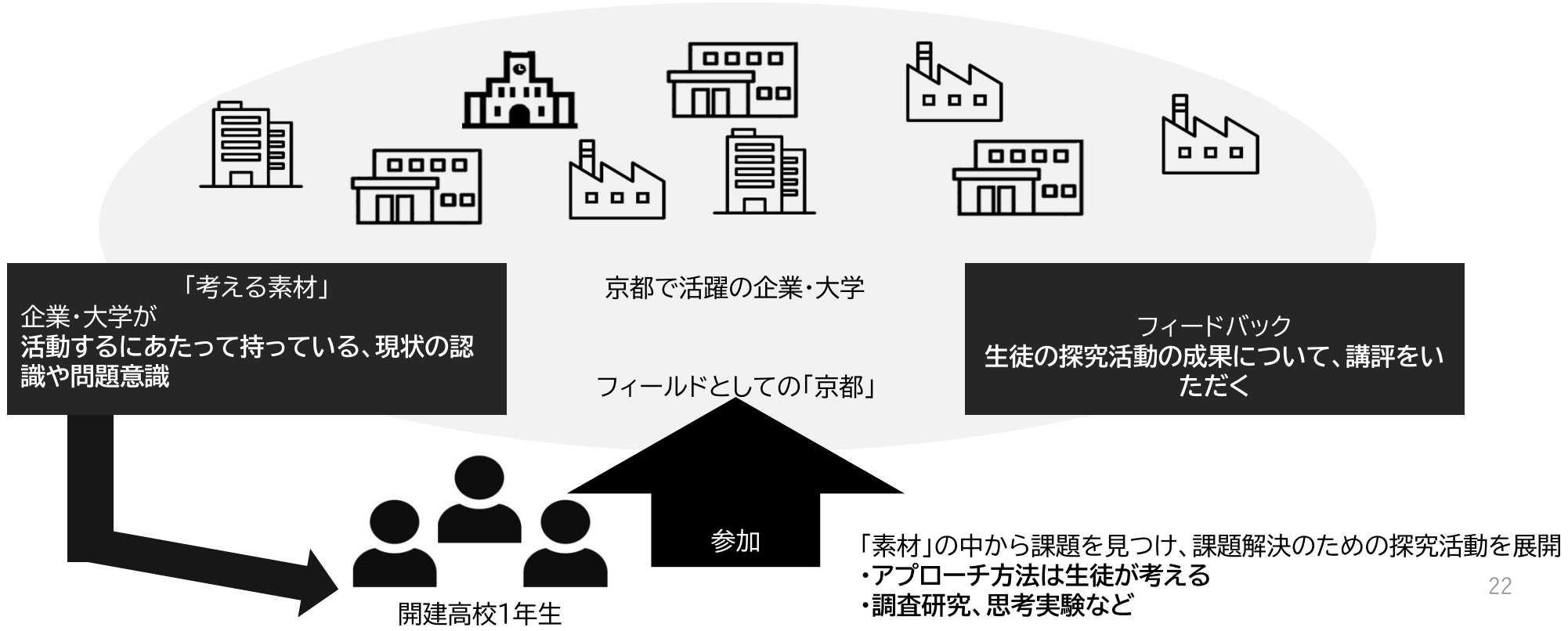
HeY!トンダ
トンダ
消臭&芳香
最大8時間持続

開建高校
Kaiken High School

１年生後期

京都探究

京都をフィールドに活躍する企業・団体のパーパスを生徒に提示し、高校生視点での提案・まとめを行う



「素材」の中から課題を見つけ、課題解決のための探究活動を展開
・アプローチ方法は生徒が考える
・調査研究、思考実験など

開建高校
Kaiken High School

障がい者の可能性を引き出し、障がい者がより多くの場で働けるようにしたい
地域に合ったコミュニティを作りたい
伝統文化を守るだけでなく、伝統を道具として使い、皆様に喜んでいただけて幸せになって頂けるものを届けたい
日本人の仕事観、働き方を変えたい
「誰かのため」になることをしたい
孤独や孤立をなくし、地域で協力して「豊かなくらし」を実現したい
みなみ力(地域力)を活性化したい
持続可能な公共交通ネットワークの構築をしたい
人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」を実現したい

開建高校
Kaiken High School

地域に合ったコミュニティを作りたい

開建生の提案

開建高校の施設を使って・・・

〇開建高校の東門の花壇に桜を植え、
お花見やイルミネーションに

〇地域の方も部活動に参加

〇地域の方が参加できる「もちつき」を実施

開建高校
Kaiken High School

地域・社会をフィールドとした探究学習を通して、社会への関わり方を変える

生徒の振り返りより

・はじめは課題について調べたことがなくてあんまり理解してなかったけど、探究を通していくうちにもともと知らなかった課題も見えてきてさらに調べる幅が広がって大変な部分もあったけど知りたいことが増えることが楽しかった。
・考える素材から自分たちで探究を深めていく中でそこからまた新たな問いや考え方が出てくるにつれてどんどん知識が深まっていくのがとても楽しく感じました。
・実際の働き方を間近で見ることができて良い体験だったと思う。働くということがもっと身近なものになった。実際自分が働くようになった時にどのような条件で仕事を探すべきか参考になった。
・普段は行かないところだったり、見る機会がないところなどを一から調べまくったり、プロの人に聞きに行ったりなど普通ではしないことをたくさん経験することができました。
・地域のことを考えながら何かをするという初めての経験になりました。
・中学と違うところは、枠に収まらず、自分たちの自由に考えることが出来るところだ。あるテーマが与えられて、そこからは自由に発想を膨らますことが出来るのは開建らしさが出ているなと思った。
・おかしいなと思う日本の社会問題はいっぱいあってもそれを改善するためにこうしたらいいやんと提案してみたらそれを実行するとこうなったしまうなとか一筋縄ではいかないことが多くあるなと感じました。
・ほかの人の意見を聞いて、「あ、そういう考え方もあるのか。こんな意見思いつかなかったな。これとこれを組み合わせたらより良い取り組みができそうだな。」などたくさん考えることがあったし、たくさんの人の意見を取り入れることによってより良い、大きくて素敵な折句身につながるということを自分の身で体感することができた。
・自分だけの視点だと一方的にしか見れてないためアイデアがとても薄いがみんなで協力したり教科ごとの目で見たり年齢の目で見たり立場での目で見たりすることによって色々なアイデアや意見、想像が膨らむため自分とは少し角度の違う意見に触れられることが出来る。その過程があった上でのいいアイデア、意見があることがよくわかった。

開建高校
Kaiken High School

１年間の総探の生徒振り返りでは、協働力・対話力の向上が特に大きい

一番用いた資質・能力	
学び続ける力	13%
協働力	34%
貢献志	5%
思いやる心	2%
対話力	38%
挑戦力	9%

二番目に用いた資質・能力	
学び続ける力	13%
協働力	31%
貢献志	10%
思いやる心	9%
対話力	25%
挑戦力	12%

開建高校
Kaiken High School

２年生

前期

「それしかないわけないでしょう」

「それ」を発見し、「〇〇だってあるじゃない！」の提案を行う

後期

「The Sky is (NOT) the Limit」

己の使命を見出し、何かに１つ以上取り組む

・プロジェクトを発案・実行する形式や、問題の調査解決、学問的研究など、幅広い可能性が想定される。
・個人で進めることも、チームで進めることも想定される。
・学校外の企業・団体と連携した活動を希望することも想定され、授業時間中に学校外に行くことも想定される。
・特に後期は、生徒は複数の探究活動に横断的に参画することも可能となり、個人・グループの探究を並走することも想定する。

開建高校
Kaiken High School

指導体制

学年生徒240名に対して、担当教員18名と大学生・大学院生のティーチング・アシスタント(TA)が担当

クラス単位で実施する活動は、担任を中心に展開する
学年全体で実施する活動は、全担当者が生徒のニーズに合わせてpodを超えて対応

指導方針

相談を中心に、生徒の活動を支援する → 教科の専門性は不要
学習する生徒が変容していくための触媒の役割

その他

○「自分で選んだ、思いついた、つくった」を毎時の探究活動記録で自覚する機会をもち、面白さやワクワク感に。
○生徒の探究活動記録は評価にも活用。
○年度末や単元末はゴールではなく、単なる通過点。興味・関心の赴くままに探究を継続してほしい。
○発表会は報告会であり、まとめを発表する場ではなく、経過とともに、わかったことや気づいたこと、価値観の変容などを報告する場とする。
○学校外への協力依頼等は地域協働コーディネーターが窓口となって対応。

開建高校
Kaiken High School

新学科設置に際して工夫していること

○生徒全員が同じ学科であること
○独自選抜では、グループワーク型の面接を導入
○探究を生かした大学進学を連携大学と模索
○地域協働コーディネーター、高校コンソーシアム
　京都などの活用
○同じ思いで活動する他の学校との交流
○興味関心に応じた科目選択を可能としたカリキュラム

集団生活でのルールも自分たちで考えてほしいので、生徒心得のみを提示　※生徒心得は学校HPに掲載
→　抑圧されない環境で、生徒が主体的に考え、楽しく活動するなどのびのびと学校生活を送っている

開建高校
Kaiken High School

指定終了後の取組継続について

○独自教材の開発による経費削減
○コーディネーター人件費や生徒の探究活動費は市へ要望中
○民間の助成の活用

生徒の可能性を最大限に伸長する教育活動に挑戦しつづけるためには、開校後もその教育活動を検証し改善するサイクルに載せていく必要があります。
経費面、他校との取り組みの共有や適切なフィードバックをいただけるしくみへの支援が必要。